

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
中川課長補佐	（遅刻者、欠席者の報告）
座長	1. 開会
三浦市長	2. 市長あいさつ
安藤政策推進係長	3. 議題 3.（1） 追加資料及び資料No.2P4 差し替えについて説明。 資料No.1 及び資料No.3 P1～P7 資料説明
A氏	基本計画について説明があったが、配布資料の構想について説明がなかったが、構想には行政改革について触れられていない。基本計画には記載されているが、佐渡市の人口減少、高齢化において医療・福祉・介護の支出が増大している。公共施設もどんどんお金がかかってきており財源が厳しい。基本コンセプトである、「安心して暮らせる社会」と「持続する循環型社会」の施策を進めていくなかで、経営目線に立ち、施策と行政改革の両輪を構想に加えるべきであり検討願いたい。
安藤政策推進係長	資料No.3P20 5年間を見据えた書きぶりとしているため、ビジョンに合わせ10年を見据えるかについては事務局で検討したい。
A氏	10年を見据えた形でお願いしたい。
座長	基本計画には記載されている。
A氏	基本構想に記述すべきである。
C氏	心配なことがある。資料No.3P4、ライフステージに応じた切れ目のない支援のなかで、延長保育など手厚いサポートが様々あるが、孫の保育園の送り迎えで感じていることは、遅くまで残されている切ない思いをしている子どもがいること、子どもへのしわ寄せを母親は理解しているのか。母親は楽で良いが、仕事があるのもわかるが、サポートに甘えすぎており、子どもの思いを母親へ伝えるべきである。この計画の背景には、親としての責任を理解させるように促すべき。

座長	本来の責任を負う自覚があるかということだが、ここで議論すべきではなく、各々のサポートと合わせて議論すべきである。
D氏	資料No.3P4(2)③子育てエンジョイカードはスタートして時間が経っているが、世の中に普及しているか、足りていないのではないか。新潟市では、トキっこクラブという団体と連携している話を聞いたが、行財政改革の話もあったように、民間に出せるものは民間に任せるべきではないか。
A氏	資料No.3P1(1)メンタルヘルスケアを加えるべきはないか。(2)認知症対策は具体的な記述があるが、(2)③フレイルの関係について具体的な記載がない。 資料No.3P2(2)③尾花地域では、8年前から地域福祉社会推進会議を開催し、地域の課題について打合せを実施し、認知症予防学等を勉強している。地域の見守り活動と文化センターとの融合が悩みどころである。社会福祉課、高齢福祉課の窓口が別のためワンストップ化により一本化されることは良い。単なる村社会での取り組みで終わらせず、コーディネーターが地域入り込むような認識の記載にいただきたい。システム構築をお願いしたい。
B氏	医療・介護と福祉のつながりがわからないが、病院だけでは終わらない状況がある。佐渡病院においても担当医はいないということもあるという説明のうえで、福祉と病院その他を含めた医療のグループ体制は市の将来構想として単に病院がすべてをみるのではなく、病院を含めた医療・福祉のグループ作りを進めるべきである。厚生連が主体となり、方向性が明確に示されたが、市としてはこの点について認知し、計画の中にあると考えてよいか。
三浦市長	病院、福祉施設のみではなく、一体型で構築していかなければならないことを前提に書くこととなる。民間の開業医も減り、役割と体制のトータル論を組み込んだ書き方にすると考えている。
座長	医療、介護、福祉、地域は市にとって大きな課題の一つである。ここがうまくいかないと安心がなくなるため、計画の入れ込んでいただきたい。
E氏	資料No.3P4(4)③ 台風15号の影響をみてもわかるが、ライフラインの確保が大事である。電気は行政の管理外であるが、電力会社のみの問題ではなく、行政としても電力を維持するための記載が必要ではない

	<p>か。</p> <p>資料No.6(3)①佐渡からの発信のみではなく、首都圏における発信も必要であり、相談窓口の利活用についても記載したほうがよい。</p>
安藤政策推進係長	<p>施策の柱は5年間の大きな柱となり、それ以外は個別計画となる。先ほどの災害は資料No.3P7(3)②に電力について記載されている。また、相談窓口の利活用については、資料No.3P6(3)②の点2つめに記載しているが、記載する場所については再度、事務局にて検討する。</p>
安藤政策推進係長	資料No.3 P8～P19 資料説明
B氏	<p>資料No.3P16 空港問題について、早期再開に希望が少し見えてきている。山形空港の事例を調べたところ、県が空港周辺に企業を良い条件で誘致し空港を活用し採算をとっている。佐渡においても飛行機を使えば新鮮なものも届けられるため、早期再開を急いでいただきたい。一次産業の発展を考えた場合、40人乗り程度の飛行機でも人の交流においても今とは異なる状況が予測できる。これに伴う付随した佐渡の発展の仕方を研究していただき、ワクワクするような計画にしてほしい。</p>
座長	現状の空港の条件等を踏まえ、具体的に検討してほしい。
F氏	<p>追加資料第3章第2節第2項(2)関係人口の拡大について、総務省では、関係人口を移住定住した人口ではなく、観光に来た交流人口でもなく、地域や地域の人と多様に関わる人々だと定義している。(2)③の書きぶりが総務省との定義と異なる。ここで記載されている関係人口はどういうことを想定しているのか。定住していないが、毎年祭りに来るなど、地域の担い手として活躍している人と理解しているため、違和感がある。</p>
安藤政策推進係長	関係人口から観光ヘシフトする、さどまる倶楽部の活用と聞いている。
G氏	<p>記載するとすれば、定住人口の拡大ではないか。持続可能な循環型社会を目指しているのであれば、いずれ定住につなげお金を落としたいことであり、その要素を記載すべきである。交流人口の拡大ではなく、定住人口なり旅行消費額を増やすことを目的入れるべき。</p>

F氏	関係人口を調べた方と記載内容にズレがあることは良くない
座長	内容の問題ではなく、言葉の問題である。
A氏	資料No.3P12(2)②ICTの活用について、四国でも若いSEの方を集めて、実際に移住し全国発信するような仕事をしている。ITタウンなど利便性の優遇のなかで人口も産業を興す取り組みも大事ではないか。知恵を持つ人を連れてくることで、市の関連産業のクオリティを上げることもできるので、この部分をもう少し膨らませてほしい。
座長	全国過疎地の動きである、佐渡ならではのメリットなど差別化した働きかけが必要ではないか。
G氏	使い古された言葉ではなく、ワーケーション、ダブルワークなど、そういった言葉を使い佐渡に求められている部分で差別化していくことが良い。先端的な意見をビジョンに加えるべきである。ICTの差別化は難しい。
H氏	追加資料第3章第2節第1項の滞在可能な観光地域づくりの推進について、ホテルだけではなく、様々な宿泊形態が必要ではないか。佐渡はホテルが足りておらず、ホテル以外での宿泊形態を充実させないと難しいと思う。
E氏	前回の会議録に「事業継承を入れてほしい」とあったが、今現在商工会が一番力をいれているのが事業継承である。両津は500mに50店舗程度商店があるが、事業主は50歳～70歳で後継ぎもいない。これでは今後、商店がなくなり買い物難民が増える。免許返納と言われる時代となり、商店がなくなることは町がなくなること。個々の事業所の支援はなくても、商工会を通じて町をなんとかする施策を書きいただきたい。
座長	日本全国の問題であり、佐渡も困っている。
D氏	資料No.3P10からの一次産業の内容について、産業の拡大、佐渡産米の拡大等は記載されているが、それとは対象的に耕作放棄地、山の管理など商売をする人の後継者不足もある。家を継ぐ人がいなくなっているなかにおいて、親世代は佐渡に住んでいたが、子ども世代は幼少から都会暮らしで佐渡と縁がなく、田んぼも山も不要となり荒れ放題となり今後も増える傾向にある。ブランディング、販売も重要だが、か

	<p>たやそういった問題をどう解決していくかを併せて進めれば、耕作放棄地、佐渡産杉材の面積を広げられるのではないかと思う。そういったところも加えてほしい。</p>
座長	<p>耕作放棄地、森林の荒廃と空き家も同じ課題であると思う。</p>
I 氏	<p>第3章「持続可能な循環型社会」のタイトルが分かりづらい。第2章安心して暮らせる社会などストレートなタイトルに対し、もう少しインパクトの強いネーミングにしてはどうか。</p>
座長	<p>前回も意見として出たものであり、検討してほしい。</p>
B 氏	<p>資料No.3P8(2)③水田に大豆はできないのではないか。</p>
H 氏	<p>大豆は数年前まで力を入れていたが、今も続いてはいるが柱の頭にもってくるものではない。</p>
B 氏	<p>大豆に若者は飛びつかない。このようなことを書いては誰も農業をやらなくなる。</p>
G 氏	<p>佐渡は多様性の島である。循環型も大事であるが、多様性をどうやったら事業化できるかを考えれば、他の地域と差別化できるのではないか。前回も意見したが反映されていない。</p>
座長	<p>タイトルを循環型ではなく、多様性にしてどうかという意見である。</p>
安藤政策推進係長	<p>資料No.3P20、追加資料第4章第1節説明</p>
A 氏	<p>追加資料第4章第1節基本方針6つ目の点、財政計画の実質公債費比率は「留意」で良いのか。「留意」ではなく、目標を記載すべき。また、7つ目の点、基金残高を確保とあるが弱い。行政全般のすべてに対し「行政経営」という目線で取組む必要がある。単に事業や予算を減らすということではなく、最終的には施策につながる見直しが必要という思いを記載した方が良い。</p>
座長	<p>経営感覚が必要ということか</p>
A 氏	<p>一律〇%減というやり方ではなく、経営感覚を持つということである。</p>

座長	全体第2章から第4章をとおしてなにか意見はあるか
A氏	資料No.3P7 防災計画について、避難経路は地域によって異なる。津波、地震、水害によっても違う。ハザードマップがすべてでは逆に被害にあう。なにかあった際に各家庭がどこを通り避難するかを、各家庭が考えるべきであり、それも教育である。そこまで行政が負う必要はない。また、資料No.3P14 洋上風力や水素もぜひ進めてほしい。良いことなので毅然とした形で進めてほしい。
F氏	資料No.3P6(3)①～③は現行行っていることが記載されている。移り住むことは書かれているが、住み続けるためのことを記載してほしい。長く住んでもらうことが目的であり、入り口は整いつつある。あとは、住み続けてもらうための柱を佐渡市として立ててほしい。
座長	なにか柱の目玉はあるか。
F氏	例えば資料No.3P4 ライフステージに応じた切れ目のない支援となるが、子ども若者課から高齢福祉課まで要は生まれてから墓場をどういったサポートを受けられるのか1冊にまとめるだけでも、対外的に提案しやすくなる。また、仕事の多様化も進んでおり、定住ではなくとも1か月に1回は必ず仕事に来る人もいる。サテライトだけではなく、パソコンだけで仕事をする人口が増えているなかで、多様な住み方があれば良いと思う。「入口」と「住み続ける」、「通って住む」という形があれば、他の自治体より良い柱になると思う。
G氏	資料No.3P11 もっと多様性という言葉を使ってほしい。世界農業遺産、ジオパークが少し書かれているが、世界遺産についてなにも書かれていないことに違和感がある。来年どうなるかわからない部分もあるが、世界遺産とまちづくりについて融合させ記載した方が良い。
J氏	サテライトオフィスなど都会の人が佐渡に関わりながら生活しているという現状が実際に起きている。都会で働くクリエイティブな仕事をするのは疲れる。殺伐としているのではなく、田舎の自然に囲まれた方が良い仕事ができる。IT関連企業も地方に支社や一定期間仕事ができるなどの条件がある方が人も集めやすくなっている。伊藤副市長もその会議に出席し、現状を把握しているはずであるから参考にしてほしい。また、交通ネットワークについて、海岸部に災害が発生すると寸断され迂回路に慌てることがある。実際には迂回路はあり、林道、村道、農業があるが管理されておらず、いざという時に使えな

	<p>い。他の自治体では異種災害ネットワークで様々な道路をつないで災害時に備える取り組みを行っている。インフラ整備、長寿命化はお金がなくては大変だが、今あるものを活用してはどうか。</p>
K氏	<p>健康診断の病気予防の取り組みと心のサポートが上下になっているが、並列の取り組みで良いのではないか。</p>
I氏	<p>日本の縮図は佐渡。佐渡は魅力があるといいながら、うまく人を連れてくる仕組みがいまひとつのようである。テーマ性を充実させ、延長線上に移住という作文をお願いしたい。「地域の核」になる核とはなにか入れてほしい。</p>
座長	<p>自然と産業だけではなく、文化も多様性も、「地域の核」はしっかり入れ込んで記載してほしい。</p>
安藤政策推進係長	<p>3. 議題 3. (2) 資料No.4 説明 資料No.5 及び地方創生関連事業の報告書の内容についてご意見があれば9月末までをお願いしたい。</p>
三浦市長	<p>4. 閉会 表現方法、文言が現ビジョンに引っ張られがちになっている。引き継ぐべき文言、新たに必要な文言を整理したい。将来人口の推計について、現ビジョンは特殊出生率を毎年2.08維持することを目標としている。この10年間で一番良い時は2.01であったため、理想論をとるかについて内部では現実と努力目標にするのかについても皆さまから意見をいただきながら作業を進めたいと思っているため、今後もしよろしく申し上げます。</p>